

テーマ

中学生・高校生の吃音

日本コミュニケーション障害学会 吃音および流暢性障害研究分科会は、本年もワークショップを開催いたします。ワークショップのテーマは、「中学生・高校生の吃音」です。文部科学省(2022)の特別支援教育資料(令和3年度)によると、小学校で通級による指導を受けている言語障害児数は全国で42,913名であるのに対し、中学校では714名、高等学校ではわずか3名と激減しています。しかし、吃音は思春期にこそ悩みが深くなることが多く、小学校段階を終えてからより充実した支援が求められる可能性が高いと考えられます。そこで本ワークショップでは、吃音のある中学生に対する支援の在り方について、臨床経験が豊富な研究者や自身が思春期に支援を受けた経験のあるSTの話題提供を通してご参加の皆様とディスカッションできればと考えております。

実施方法

オンライン

- (1) ビデオ会議システム (Zoom) 2023年12月2日 (土) 13:00～15:00
- (2) オンデマンド配信 2023年12月10日 (日)～2024年1月10日 (水)

プログラム (司会 広島大学 川合紀宗)

吃音のある中学生の支援 (北里大学 原由紀)

中学生の時期が「一番辛かった」という声を多く聞く。相談場所が極端になくなるこの時期に、どのような支援が望まれるのか、インタビューの結果と、発話面と心理面の支援を統合したセラピーを実施した経験から中学生の支援について考える。

クラタリング・スタタリングを示す高校生の事例について (筑波大学 宮本昌子)

思春期のクラタリング・スタタリング(早口言語症と吃音の併存)の事例では、インテーク時に自己評価が低下し、社交不安が重度化している場合がある。今回、クラタリング症状の改善を目的としたセラピーを受けた高校生の心理面の評価と変化の過程について提示し、思春期の支援にて必要と考えられる留意点を紹介する。

吃音のある中学生の支援 (アドボカシーとキャリア教育の視点から) (金沢大学 小林宏明)

中学生になってはじめて相談に訪れる中学生の中には、吃音の心理的な問題が重度化し、学校生活等に大きな支障が生じている場合が少なくない。そのような中学生の支援では、アドボカシーの観点から学校生活等における吃音の困難の軽減を図ると共に、「吃音のある自分」を見つめ自身の将来について考えるキャリア教育の視点にたった支援が有効である。本発表ではこのような視点から吃音のある中学生の支援を考える。

学齢期における支援の重要性 (当事者の視点から) (筑波大学附属病院リハビリテーション部 金尾智華)

発表者は、専門家の支援の下、吃音の正しい知識や楽な話し方を身につけることができた。自身の吃音はコントロールできる、話し方よりも伝える内容が大切であるという実感を得てから、これまで吃音を理由に避けていた社交場面に積極的に参加するようになった。こうした経験を踏まえ、学齢期における支援の重要性について検討する。

対象 吃音のある学齢児の指導・支援に従事されている先生 (ことばの教室、言語聴覚士など)

* 日本コミュニケーション障害学会の会員以外の方も参加可能です

参加費 無料 (申込は必要です)

参加申し込み

参加申込締切 2023年11月26日 (日)

参加申込は、以下のURLにあるお申し込みフォームからお願いします。(QRコードからアクセスできます)

<https://forms.gle/MYfrTmKDP7Y5FBdf>



お問い合わせ先

日本コミュニケーション障害学会吃音および流暢性障害研究分科会代表

酒井奈緒美 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所)

sakai-naomi@rehab.go.jp

〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1 国立障害者リハビリテーションセンター研究所